



人件費における新しい現実と新しい生産環境におけるグローバル戦略

令和6年1月16日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

国際環境の変化は物価水準と給与水準を新たに経済における新しいヒエラルキーとともに形成する。これらは金融と経済が新しいグローバル環境と現実を有することを意味する。

資本主義は必ず資本における判断を自己とするものである。それにおいて金融は、その血液なのである。

給与水準のグローバル環境における判断は、自動生産への移行とともに、企業のグローバル戦略において、その生産拠点と企業運営における新しい判断を要求するものである。

これらは先端の生産体制とシステムは、その高い生産性において、人件費という判断を無視できるならば、将来における新しい生産システムの構築は、貿易環境を無視して、その自己構築を可能とできるのである。

これらは、開発拠点における人材の要求は、新しい企業の生命線となることを意味するものである。

これらはグローバル企業における役員の給与水準は、優秀な人材への待遇とともに、一つの要求性における正しい判断であることを意味する。

これらは既存横並びに対して、西洋のルールが存在するのである。しかし社員の創造性が、自己を与えられるならば、それらが優れることはありうるのである。

これら高い生産性は、高い利益性を与えるものである。これらは時代変化の与える新しい現実である。

これら資本力は、企業の高い競争力を与えるものである。しかし自己の卓越した独創性や理解は、世界のメジャーとの対等性を実現できるのである。

これらは独創性は、高い理解性を基盤として、企業の構築を実現できることを意味し、それらは世界や時代との対等性を実現できるのである。